

俺の現場！

# 大槌漁港施設機能強化 (スロープ道路)工事

今回ご紹介するのは、大槌漁港施設機能強化(スロープ道路)工事を  
担当している D さん。

初めてのスロープ工事で注意を払ったポイントや、

今後目指したい姿についてお聞きしました！

## 大槌漁港施設機能強化(スロープ道路)工事

工期 2021年1月～3月

場所 岩手県上閉伊郡大槌町

人数 多田工務店5名、全体10名

「渋さも仕事も超一流！なDさん」と聞いていますが、  
ご自身のどんなところがそう呼ばれる理由だと思いますか？

話すことが苦手なので、その寡黙さゆえの「渋さ」という評価かもしれません（笑）  
仕事についてはベテラン社員の皆さんに比べればまだますが、これから「超一流」の域を目指したいと思います。



## 初めてのスロープ工事

私にとって、スロープ工事を担当したのは初めてでした。特に心がけたのは、仕上がりの美しさ。表面が凹凸なく平らになるよう、生コンクリートの打設の際にバイブレーターを細かく動かしながら、まんべんなくかけるようにしました。その甲斐あって、気泡が綺麗に抜け、滑らかな仕上がりにできました。

次回は、\年齢は若いけれども親分肌な/  
T.Iさんの現場「跳石橋橋梁災害復旧工事」の  
様子をお届けします！お楽しみに！

TK plus

vol.6  
2021年3月25日発行



▼若き日の多田秀樹前社長  
(1991年)

ベテラン社員が語る

## 多田工務店の歴史

知られざる多田秀樹前社長の姿や、約30年前の多田工務店の様子。  
ベテラン社員のお二人に「あのころ」を語っていただきました。



人を大切にする  
多田秀樹前社長の姿

平成元年の多田工務店設立当初、社員数は50名ほど。毎月皆で前社長の大好きなジンギスカンを食べに行って労をねぎらうなど、社長と社員との距離は友人のように近いものでした。そうした日々のコミュニケーションを通じて一人ひとりの得意な分野をよく理解され、それを生かす形で仕事の幅を広げてこられました。また、「会社のものでも自分のものだと思って大事に使えよ」とも教え込まれました。前社長は「人に恵まれた」とよく仰りますが、人やものを大切にしてきたからこそ、会社も大きくなったのだと思います。

専務取締役  
いち くら のぼる  
**一倉 昇さん**



▲若き日の一倉さん（1991年）

人手が足りない中、  
がむしゃらに働いて完遂した大型案件

設立後間もない頃、岩手県金ヶ崎町にある富士通株式会社の工場の二期工事を担当。毎日8時から21時までという激務でしたが、「この案件をきつちやり遂げ、会社の実績にするんだ」という使命感があったからこそ、がむしゃらに頑張ることができたのだと思います。一緒に働く方々は父親のように年齢が離れていましたが、お酒の席で腹を割って話すことで打ち解けていました。

## 社員の皆さんへメッセージ

皆さんやればできる方々だと信頼しているので、一見「できない」と思えるような大変なことでも、諦めずに頑張ってほしいと思います。このような立派な会社を次世代に引き継いでいくには、若い皆さんのが必要です。私も力になれるよう努めますので、ぜひ頼ってください！



知られざる  
前社長の若き日の姿

子供のころから気が強く、言い出したら一步も引かない子でした。どうしても欲しいと言うので、高校卒業後に遠野市内の設計事務所に勤めていたときに750ccのバイクを買ってあげたり、フォルクスワーゲンのビートルも買ってあげたりしました。あるとき、間違って「フォルクス“バー”ゲン」と言ってしまい、すごく怒られたことを覚えています。その次は自ら船を買うなど、とにかく多趣味で、仕事にも遊びにも全力で充実した一生だったのではないかと思います。

監査役  
た だ  
**多田 サヨさん**



## 立ち上げから、軌道に乗るまで

法人設立の際は手続きが分からず苦労の連続でしたが、遠野土建（現：㈱テラ）の事務の方に助けていただき、やり遂げることができました。業績が悪かったときは、毎月資金のやり繰りに奔走し、なんとか無事に支払ができたときには心底ホッとしたものです。

## 社員の皆さんへメッセージ

コロナ禍で大変な中でのお仕事、皆さん本当にご苦労様です。皆さんが働いた結果はカタチとして、何十年先も残ります。今では86歳になった私も、若いときは現場で働いていました。そのとき造ったものが残り続けていることは誇りです。皆さんも仕事に何かやりがいや誇りを持ち、引き続き頑張ってください。